

在宅緩和ケアを担う人材育成 事業について

事業概要

1 概要

将来、千葉県において在宅緩和ケアを中核的に担う人材育成を行う

2 財源

地域医療再生基金(平成24年度補正)

事業総額3,000千円(基金負担分3,000千円)

3 事業内容

- ・在宅のがん緩和ケアの中核的・指導的役割を担う医師・看護師を養成するプログラムを開発
- ・在宅療養支援診療所やがん診療連携拠点病院の緩和ケア病棟及び緩和ケアチームにおいて、介護を含めたチームでのケアの実践を可能にするための実地・実習を中心としたモデル研修

4 事業主体 千葉県がんセンター

事業実績

年度	事業内容	実績等
平成25年度	研修プログラムの概要を定めるための会議	
平成26年度	・モデル診療の開始に向けて、実施方法の詳細検討 ・専門的緩和ケアのための、医師、看護師を対象としたセミナーの開催	がん診療連携拠点病院等の医師、看護師、訪問看護師等 30名程度
平成27年度	・人材育成のための在宅緩和ケア実践モデル診療* ・モデル診療のプロセスの中での緩和ケア研修プログラムの確立	医師1名 看護師1名 計2名の育成

【モデル診療の概略】

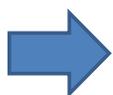
千葉県がんセンターが緩和ケア診療所と協働し、研修生の医師、看護師に対し、緩和ケア診療所より指導を受けながら実践的な研修を行う。

- ・ 将来地域で在宅緩和ケアの中核になる人材育成、6か月間の診療(実地研修)
- ・ 医師および看護師各1-2名、がんセンターHPで参加者を公募
- ・ 千葉県がんセンター(緩和医療科)、指導施設(緩和ケア診療所:さくさべ坂通り診療所)

事業効果

【モデル診療】

紹介患者	在宅看取り	成果
4人	3人(100%) *1名は、意思決定にかかわっている段階で死亡退院	・患者を含め在宅と病院の関係者が同じ目標の共有ができたため、患者が最期まで希望する自宅で過ごすことができた。 ・在宅緩和ケアを専門とする医療者から助言を得ることで、病院側の視点以外に在宅側の視点を取り入れることができた。

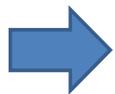


在宅のがん緩和ケアの中核的・指導的役割を担う医師・看護師を養成することは必要となる。特に病院医療、在宅医療、介護、生活を熟知している調整役となりうる看護師の育成は重要である。

事業効果

【合同カンファレンス】

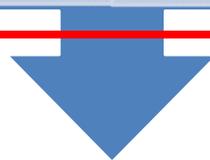
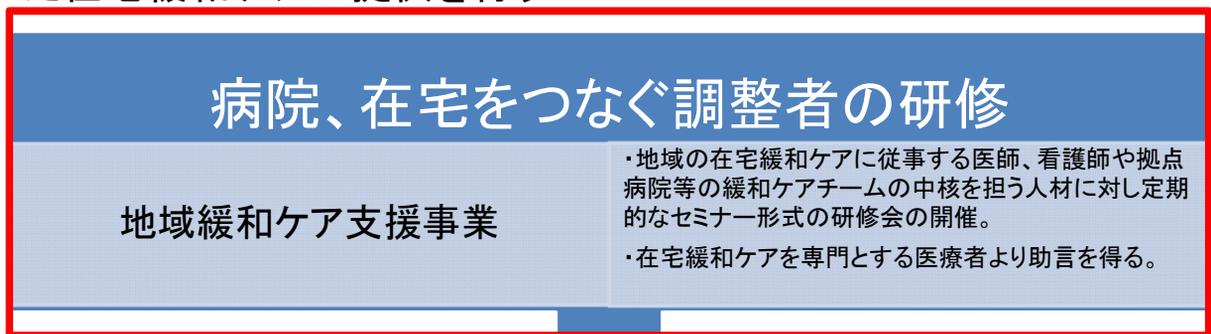
合同カンファレンス	参加スタッフ	内容
8回	○千葉県がんセンター ・緩和ケア病棟の医師、看護師 ・退院支援部門の看護師等	・モデル診療の症例検討 ・在宅連携の在り方について
	○さくさべ坂通り診療所 ・医師、看護師	
	○研修生が所属する診療所 ・医師、看護師	



病院と在宅のスタッフが集まることにより、両者の視点から在宅緩和ケアの連携に対して検討を行う事で、在宅に対する認識を深める

今後の人材育成

モデル診療の成果より、病院スタッフと在宅スタッフが目標を共有した在宅緩和ケアの提供を行う



将来的には

